



岡本 ひとし

一、広域行政の推進に向けたあり方 二、能勢の教育行政について

広域行政の推進に向けたあり方

問 広域行政の推進は？本町にとっての方向性を伺う。

答 多少のデメリットはあっても、最大のメリットを模索して生かしたいと考えている。

問 住民サービスの向上につながる最大メリットだと考えるが

答 住民に身近なところで住民サービスができることになる。財政的に一定負担があるかも知れない。

問 連携することで、特殊技能や特別な知識を取ることができると思われるが。

答 本町にとってメリットが出せるかという考え方が大事である。

問 能勢のアピールも必要ではないか。

答 十二月府議会の冒頭に能勢三番叟を演じる予定で。

能勢の教育行政について

問 広域連携での教育行政の問題点は？

答 教員の人事権を市町村で実施していくことになるが、詳細な問題点は今後検討していく。

問 来年度、一億九千万投じて学力調査を実施しようとしているが、更なる調査は必要か。

答 どこに課題があり、どこが成果が上がったのか把握する意味で、データを得るといふ意味でも実施したいと思う。

問 学力調査そのものを否定しているのではなく、むしろちゃんとした調査を実施し、すべてのこともたちの学力保障が重要ではないか。

答 同感であります。それが人権教育の思想である。

問 学校間の格差や地域間の格差を助長するような公開をしないと認識するが。

答 本来の趣旨から外れることのないようにする。

問 参加については、市町村教育委員会の判断に委ねられているが、参加する考えか。

答 その方向で考えている。

問 すべての子どもの学力保障について伺う。

答 親の経済状況や、家庭の学習環境にハンディがあるとしたら、その分学校でフォローして取り組んでいきます。

問 学校再編について決め細やかな説明が更に必要ではないか。

答 子育て世代の保護者などにも説明会を調整していきます。



一般質問



八木 修

第五次能勢町総合計画について

問 6月の議会で、第5次総合計画を策定するのならば持続可能なまちづくりの根幹をなす自治基本条例をあわせて制定してはと提案し、町長は検討に値するとその場で総務部長に指示していたがどうなったか。

答 直ちに策定する予定はないが総合計画策定時において基本理念等を策定したい。

問 時の為政者によって政策がころころ変わってはダメなので、能勢町のまちづくりの基本理念を示すことは大事だ。再度確認するが、総合計画の策定時に町長は自らの思いを示すのか、審議会に白紙でお願いするのか。

答 直接関わらないが、参加する職員に私の思いを伝えておく。

問 まちづくりの基本理念が確立しておれば、町長の思いと違う内容になっても審議会は議論できるが。

答 基本条例を否定するわけではないが、総合計画策定の時期が迫っている。また私の思いと違った総

合計画ができたとしたら、私は何のためにここで仕事をさせていただいていいのかわからなくなる。違うなという希望する。

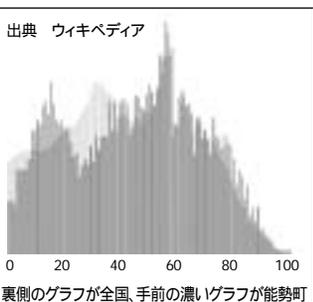
問 ならばここで町長のビジョン、思いを示すべきだ。

答 だらだら1つずつ言ったら長くなるので簡単に言うとグリーンツーリズムに関連したまちづくりだ。

グリーンツーリズムとは
1992年度(平成4年度)に農林水産省により「グリーンツーリズム」という言葉が提唱された。都市住民が農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動としている。「滞在型」は「周遊型」に対する概念であり、必ずしも宿泊に限定されるものではない。また「余暇活動」とは、主として都市の住民が余暇を利用して農村などに滞在しつつ行う農作業などの体験、その他農業などに対する理解を深めるための活動をいう。

問 人口減少、少子化、高齢化に対して取るべき課題は。

答 全国的に人口減少化時代へと転じ、能勢町ではそれぞれの年代に対応した施策を展開している。



出典 ウィキペディア
裏側のグラフが全国、手前の濃いグラフが能勢町